

日本学術会議会員任命拒否に対する声明

2020年10月から始まる日本学術会議第25期の会員選考に際し、学術会議から推薦された6名の候補者の任命を内閣総理大臣が拒否した。

かつて権力に学問が追随し戦禍に多くの国民を巻き込んだ責任に対する反省に基づき、独立した活動を通じて、人類社会の福祉への貢献と学術の進歩への寄与を使命とする日本学術会議の根幹を揺るがす事態である。

私たちは考古学という学問的営みを通し、権力のあり方を多面的に論じてきた。些細な契機で権力が強制力を顕現させてきた歴史を顧みると、法的手続きに従って推薦された候補者を明確な説明もなく拒否するという今回の措置は、学術研究のみならず広く市民の日常生活を脅かす端緒となる危険性を看過できない。

以上の理解に基づき、学術会議からの推薦会員任命を内閣総理大臣が拒否したことを、学問の独立性を損ない、さらに学問・表現の自由の制限に及ぶ事態として、考古学研究会は深く憂慮する。そして、任命を見送られた新会員候補の速やかな任命を強く求めるものである。

2020年10月10日

考古学研究会常任委員会